

高齢化が進む富雄団地における居住者のニーズと実態 ～居場所づくりを通じて～

研究代表者：嶋 陽菜子

共同研究者：神座 真理 猿木 菜那 篠原 由実 濱 純也

福井 杏奈 山崎 友未奈

第一章 研究の背景と目的

第二章 富雄団地の実態

第三章 富雄団地の一人暮らし高齢者の特徴と暮らしの様子（居住者調査）

第四章 居場所（ご当地カフェ）来場者の評価と意向（来場者調査）

第五章 調査結果からみた居場所づくりの課題

第六章 まとめ

第一章 研究の背景と目的

現在日本は高齢化と人口減少が進んでおり、内閣府の調査によると2014年10月1日の時点で65歳以上の高齢者人口は、過去最高の3300万人であり、総人口に占める割合は26.0%となった。その中で、奈良県の人口は1970年から80年代に大阪・京都のベッドタウンとして増加した。奈良市西部に位置する富雄団地(1966年入居開始)は、その初期の開発地にあり、当初は多くの核家族世帯が入居したが、50年近く経過した今、団地には一人暮らしや夫婦のみの高齢者等が増加し、生活上の何らかの支えを必要とする新たな入居者も増え、多様なニーズへの対応が求められている。しかし、公的制度や支援によるサービス提供には限界があり、安心して在宅生活を継続することができるような地域づくりの必要性が高まっている。

そこで本研究では、居住者同士の支えあいの人間関係や信頼関係等に基づき、高齢者が安心して在宅生活を継続することができるような地域のあり方を明らかにするため、富雄団地の実態や居住者ニーズ等を把握する。それにより、①高齢者が地域から孤立していく要因の分析や、②高齢者が孤立しないための地域づくりの課題の明確化を目的とする。

第二章 富雄団地の実態

(1) 奈良市西部の特徴

富雄団地の位置する奈良市西部は、戦後、大阪都市圏の郊外住宅地として急速に宅地開発が進んだ丘陵地域である。

その人口・世帯の特徴をみると、平成17年に比べ、平成22年の世帯数は増加傾向にあるが、世帯人員は減少傾向にあり、一世帯あたり2.5人と核家族化の進展や単身世帯の増加の傾向がみられる。また、高齢化率は市全体(23.5%)より0.2ポイント高い23.7%となっている。

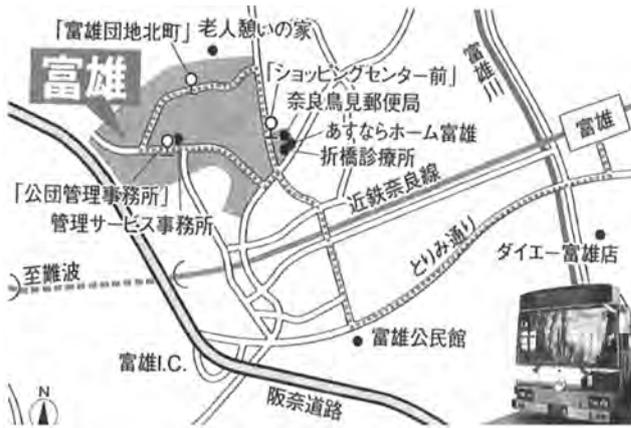


図1 富雄団地の位置



図2 団地配置図

(2) 富雄団地の現状・実態

奈良県奈良市西部に位置する富雄団地は、昭和41年に完成・入居が開始し、当初は多くの核家族世帯が入居した。しかし近年では、人口が減少するとともに核家族世帯が減少し、高齢者のみの世帯が増加傾向にある。国勢調査(表1)によると団地のある鳥見町4丁目の平成12年の人口総数は3754人であるが、平成22年には2566人と約68%に減少している。これに対し65歳以上の人口は、平成12年で507人、平成22年で815人と約160%に増加している。また、65歳以上のみの単身世帯数は、平成12年で155世帯、平成22年は279世帯と約180%増加している。一方、平成12年の15歳以上の人口3187人のうち配偶者と死別・離別した人が392人なのに対し、平成22年では2318人に対して、456人と、死別率が12%から19%へと増加しており、高齢者が単独で暮らしている要因となっている。以上のことから、前述のように富雄団地では人口の減少に反して高齢者が増加しており、一人暮らし、とりわけ配偶者と死別した高齢者が増加している。

表1 鳥見4丁目の人口・世帯数の変化

	平成12年	平成17年	平成22年	増減率 (平成22年/12年)
人口総数(人)	3754	3137	2566	68%
うち、65歳以上人口(比率%)	507(13.5%)	704(22.4%)	815(31.8%)	160%
世帯数総数(世帯)	1601	1540	1374	85%
うち、核家族世帯数	1078	880	705	65%
うち、65歳以上のみ単身世帯	155	237	279	180%
一世帯当たり平均人員数(人/世帯)	約2.3	約2.0	約1.9	83%

第三章 富雄団地の一人暮らし高齢者の特徴と暮らしの様子（居住者調査）

(1) 目的と方法

富雄団地における一人暮らし高齢者の生活の現状や傾向について明らかにし、孤立の実態やその要因について考察することを目的にアンケート調査を実施した。対象者は富雄団地に暮らす70歳以上の一人暮らし高齢者である。また、鳥見地区民生児童委員協議会のご協力により、対象者へ民生委員からの直接の手渡し、またはポスティング（不在時）により配布した。調査期間は2015年10月20日から11月20日までである。調査内容は、対象者の属性（年齢、性別）、日常生活（外出・会話の頻度、趣味、参加している活動）、富雄団地での生活、についてである。

(2) 結果

220通のアンケート票を配布し、126通の回答を得た。回収率は57%である。

1) 高齢者の特徴

アンケートの回答から高齢者の特徴を明らかにする。回答者の性別の内訳は、男性34名（27.0%）、女性90名（71.4%）と女性が多く、また、年齢の内訳は、70歳～74歳21名（16.7%）、75歳～79歳47名（37.3%）、80歳～84歳35名（27.8%）、85歳～89歳16名（12.7%）、90歳以上5名（4.0%）と、70歳代後半から80歳代前半が多い。

入居年数は1966年から2015年の間であり、1966年～1975年の入居者（24.6%）と1996年～2015年の入居者（合計49.2%）が多く、比較的、居住年数の短い高齢者が多い。

2) 孤立化の実態

年齢と外出頻度の関係では、70歳～74歳では60.0%がほぼ毎日外出しているが、75歳～79歳では40.0%、80歳～84歳では33.3%となっており、年齢が高くなるにつれ外出頻度が減少する傾向にあることがわかる。また、年齢と屋外での歩行の状況の関係では全体では何も使わずに歩くと回答した人が74.6%であるが、中でも70歳～74歳では85.7%に対し、90歳以上では40.0%となっており、年齢が高くなるにつれて何も使わずに歩く人が減少傾向にあることがわかる。

外出頻度と会話の頻度の関係では毎日誰かと話していると回答した割合が50.8%で最も高かった。ほぼ毎日外出しているという人から2～3日おき程度の外出をすると回答した人では、毎日誰かと話しているという割合は外出頻度が減少することで71.4%、59.1%、26.8%と下がっている。しかし、週に1回程度と回答した人では40.0%、月に1～3回程度の外出と回答した人では66.7%と、毎日会話しているという割合は高い。

外出頻度と富雄団地内の付き合いの関係では、全体では会えばあいさつをする人がいると回答した人が全体の中の比率では最も多く、次いで立ち話等する人、物のやりとりをすると続いている。このうち、外出頻度の少ない人ほど、あなたのことを気にかけてくれる人や、玄関の鍵を預ける人の比率が高く、一部の居住者間では近隣との助け合いが実施されていることがわかる（表2）。

表2 外出頻度と富雄団地内の付き合い

	会えばあいさつをする人	立ち話等をする人	物のやりとりをする人	趣味や娯楽を一緒にする人	住宅を訪問しあう人	留守をするときに声をかける人	あなたが日頃から安否を気にかけている人	あなたが日常生活の手助けやお世話をしている人	あなたのことを気にかけてくれる人	別居している家族の連絡先を教えている人	玄関の鍵を預けている人	すべての項目に当てはまるような人はいない
ほぼ毎日 (n=43)	88.4%	69.8%	60.5%	37.2%	46.5%	34.9%	39.5%	7.0%	48.5%	39.5%	16.3%	4.7%
1日おき程度 (n=21)	81.0%	66.7%	52.4%	23.8%	33.3%	9.5%	42.9%	14.3%	42.9%	19.0%	14.3%	0.0%
2～3日おき程度 (n=41)	82.9%	53.7%	53.7%	26.8%	51.2%	29.3%	48.8%	9.8%	70.7%	39.0%	29.3%	0.0%
週に1回程度 (n=10)	80.0%	70.0%	80.0%	40.0%	40.0%	50.0%	70.0%	20.0%	80.0%	60.0%	40.0%	0.0%
月に1～3回程度 (n=3)	66.7%	0.0%	66.7%	0.0%	0.0%	33.3%	66.7%	33.3%	33.3%	33.3%	66.7%	0.0%
合計 (n=116)	83.9%	61.9%	58.5%	30.5%	44.1%	29.7%	46.6%	11.0%	56.8%	37.3%	23.7%	1.7%

つぎに、入居時期と富雄団地内の付き合いの関係では、1976年～1985年入居者は留守するときに声をかける人が他と比べると低い。すべての項目に当てはまるような人はいないと回答した人は、2006年～2015年に入居した新しい居住者にのみ見られた（表3）。

表3 入居時期と富雄団地内の付き合いの関係

	会えばあいさつをする人	立ち話等をする人	物のやりとりをする人	趣味や娯楽を一緒にする人	住宅を訪問しあう人	留守をするときに声をかける人	あなたが日頃から安否を気にかけている人	あなたが日常生活の手助けやお世話をしている人	あなたのことを気にかけてくれる人	別居している家族の連絡先を教えている人	玄関の鍵を預けている人	すべての項目に当てはまるような人はいない
1966～1975 (n=31)	90.3%	71.0%	77.4%	38.7%	45.2%	48.4%	51.6%	9.7%	58.1%	45.2%	25.8%	0.0%
1976～1985 (n=11)	72.7%	54.5%	54.5%	27.3%	36.4%	9.1%	54.5%	9.1%	45.5%	27.3%	36.4%	0.0%
1986～1995 (n=9)	88.9%	44.4%	55.6%	66.7%	55.6%	22.2%	66.7%	22.2%	77.8%	44.4%	22.2%	0.0%
1996～2005 (n=34)	88.2%	70.6%	58.8%	14.7%	47.1%	32.4%	52.9%	11.8%	55.9%	41.2%	23.5%	0.0%
2006～2015 (n=26)	76.9%	53.8%	46.2%	30.8%	42.3%	19.2%	30.8%	7.7%	61.5%	23.1%	15.4%	3.8%
不明 (n=4)	75.0%	50.0%	50.0%	25.0%	50.0%	50.0%	25.0%	0.0%	25.0%	50.0%	25.0%	25.0%
合計 (n=115)	84.3%	62.6%	60.0%	30.4%	45.2%	31.3%	47.8%	10.4%	57.4%	37.4%	23.5%	1.7%

1年以内に参加したことがある活動では、ふれあい食事会が67.2%と最も高く、喜楽会サークル活動、奈良県大生のカフェへの参加は10%程度と低い。性別ごとに見ると、男性はふれあい食事会や喜楽会サークル活動、あすならホームや団地集会所でのお茶・ランチ、歩こう会には参加しているが、奈良県大生のカフェとふらっとの活動には参加していなかった。一方、女性ではすべての活動への参加がみられる。

3) 富雄団地居住者の意向

富雄団地の住みやすい点、住みにくい点を3項目まで選択できる形式での質問を行った。富雄団地の住みやすい点では緑が多く、住環境がよいという点が最も多く、次いで住み慣れているという点であった（図3）。また、富雄団地の住みにくい点では商店等が少なく、日常生活が不便という点が多く、次いで階段や坂道などが多く外出が不便という点が多かった（図4）。

今後も富雄団地に住み続けたいかどうかという質問では住み続けたいという回答が42.1%

を占め、できれば住み替えたい、住み替えたいと考えている人は合わせて 15.0% であり、住み続けたいと考えている人が多い。

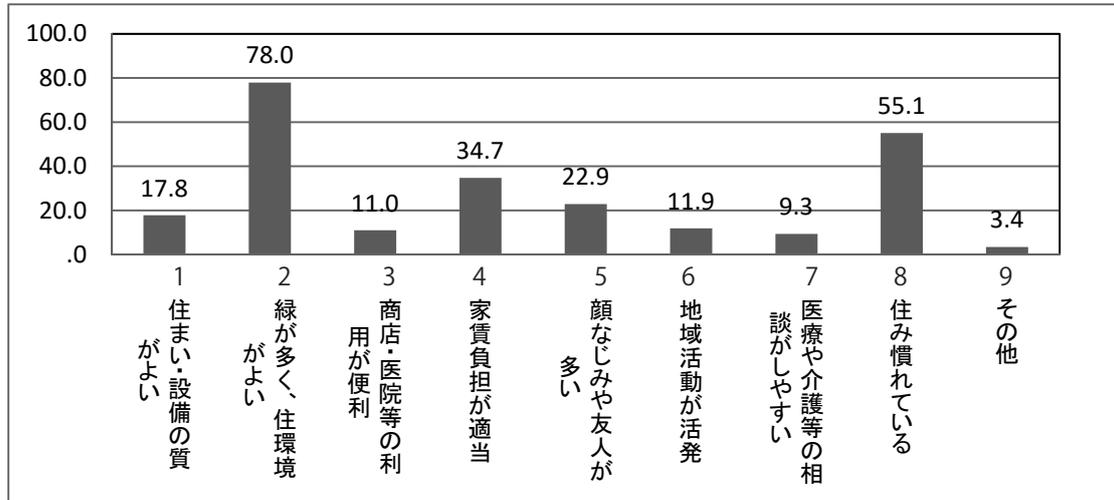


図 3 富雄団地の住みやすい点

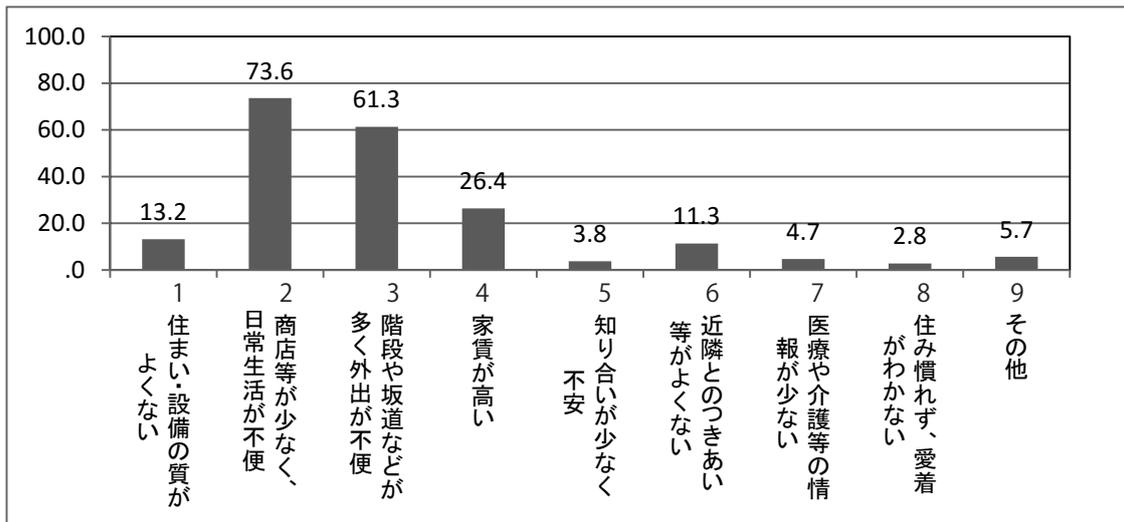


図 4 富雄団地の住みにくい点

第四章 居場所（ご当地カフェ）来場者の評価と意向（来場者調査）

「ご当地カフェ」とは、佐藤専門ゼミ生の出身地の郷土料理をワンプレートで提供するコミュニティカフェである。カフェを開催している場所は、元幼稚園であった鳥見デイサービスセンターふらっとである。その一室を改修し、地域の方々の身近な相談口として、コミュニティスペース「まんま」を設け、様々なイベントを企画・実施している。

(1) 来場者の特徴

第 1 回、第 3 回、第 4 回の計 3 回のご当地カフェを通じた参加者は延べ 105 名で、この間の調査回答者は延べ 64 名である。内訳は男性 17 名、女性 44 名、未回答 3 名と女性の参加者が多い。年齢別に分析すると、70 代の参加者が 32 名と多いことがわかった。また、回数を重ねるごとにリピーターが増えるのではないかと予想とは異なり、第 3 回の回答者 24

名中 15 名が初めて参加する方であった。これは、「ご当地カフェ」の認知度が広がっていることを示していると考ええる。

表 4 来場者数（男女・年齢別）

	～39歳	40～50歳代	60歳代	70歳代	80歳代～	不明
男(n=17)	23.5%	5.9%	5.9%	41.2%	23.5%	0.0%
女(n=44)	11.4%	4.5%	15.9%	52.3%	11.4%	4.5%
不明(n=3)	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	0.0%	33.3%
合計(n=64)	14.1%	4.7%	12.5%	50.0%	14.1%	4.7%

(2) 情報源

参加するきっかけとなった情報源を男女別に分析すると（図5）、男性では、「その他」を挙げた方が41%と最も高く、女性では「ふらっと通信」を情報源に挙げた方が45%と最も高かった。「その他」の回答に注目してみると、「夫婦や友人から聞いて誘われて来た」という回答が多く見られた。

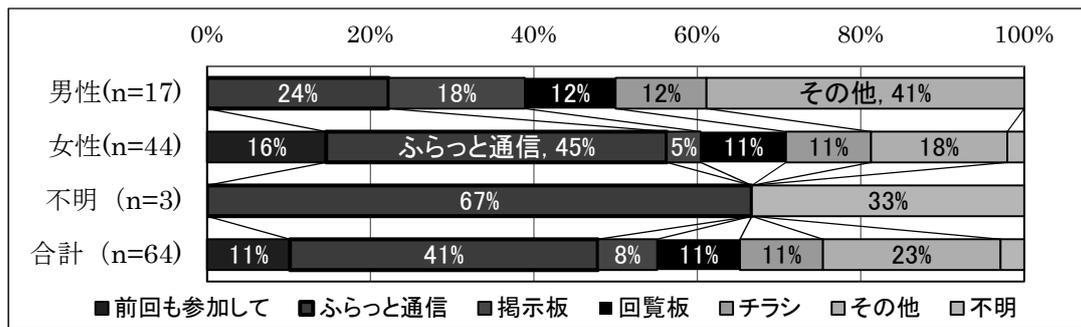


図 5 情報源（男女別）

(3) 居場所の評価

計3回の調査結果をもとに料理の感想について分析したところ、「満足」と回答した方が男性では76.5%、女性では77.3%という結果が得られた。

参加意向を男女別に分析すると（図7）、食に関するイベントに参加したいと回答した方が男性では53%、女性では43%と、男女ともに食についての興味関心が高いことが分かった。

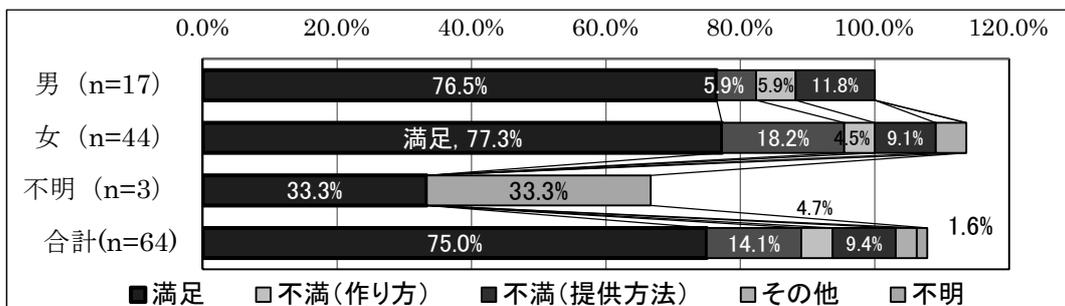


図 6 満足度（男女別：複数回答）

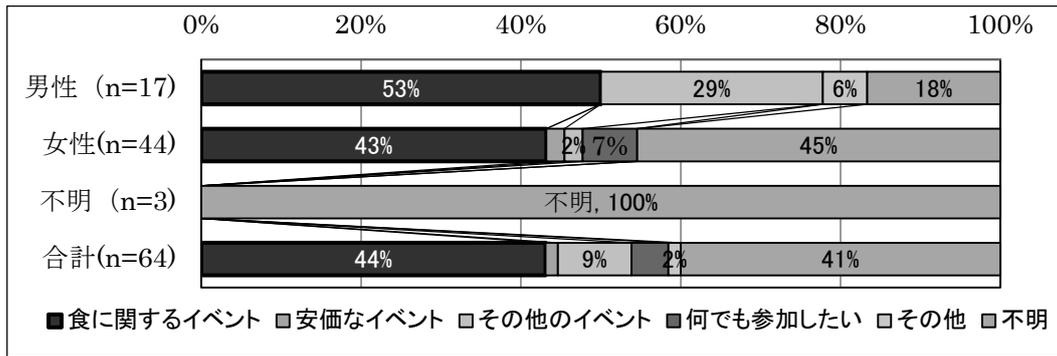


図7 イベントへの参加意向（男女別）

第五章 調査結果から見た居場所づくりの課題

第五章では、居住者調査と「ご当地カフェ」来場者アンケートの結果をもとに居場所づくりの課題を分析する。

居住者調査では70代の方は「ほぼ毎日出かける」と回答していた割合が他の年代よりも高くなっている。そして「ご当地カフェ」の来場者の割合も70代の方が最も多く、半数以上を占めた。情報源としては「ふらっと通信」が1番多いが、次いで「その他」が多く、その理由に「友達に教えてもらった」という回答があり、出かける頻度が高いほうが「ご当地カフェ」について耳にする機会も多く足を運びやすいのでないだろうか。また、高齢になるにつれて歩行機能が低下し、何も使わずに歩く割合が減少している。加齢による歩行機能の低下が外出頻度の減少を招いているものと考えられる。「ご当地カフェ」に参加された方の住まいは「ふらっと」の近所が多く、特に徒歩でいらっしゃった方は男性の約3割、女性約7割と多い。何も使わずの歩行が困難な方や少し遠くに住んでいる方のために送迎サービスが必要だということがわかる。そのためには外出支援等を行う団体等との連携も視野にいれていかねばならない。

次に課題として「ご当地カフェ」来場者のうち男性の利用が約3割未満と女性に比べて少ないことが挙げられる。これは居住者アンケートを見ても、「ふれあい食事会」や「あすならホームや団地集会所でのランチ」や「お茶会」などでも同様に男性の参加率は女性より低くなっている。しかし、喜楽会のサークル活動では女性よりも男性の参加が多い。このことから男性も自分の興味があることや得意分野の活動ならば参加することがわかる。「ご当地カフェ」のような食を使った居場所づくりに、男性の趣味・特技を活かす要素を加え、男性の参加率を向上させていくことが重要である。

3つ目に、カフェに1人で参加される方が少なく、参加者の大半は共に暮らす夫婦や近所にいる友人同士であった。これは「ご当地カフェ」来場者の情報源としてその他に「友人に教えてもらった」等の口コミ関係の回答があったことから複数での来場が主流となっている。このことから、座席で食べる形式にこだわらず、屋外で屋台形式のように提供すれば一人でも気軽に参加でき、足を運びやすくなると考えられる。3回の「ご当地カフェ」を通して、特に杖や車いすがなければ歩けない方、男性、1人での参加といった人々の来場にも配慮していくことが今後必要であると思われる。

第六章 まとめ

最後に、以上のことから高齢者が安心して在宅生活を継続することができる地域のあり方とは何かを考えていく。

まず二章で述べたように、富雄団地では現在人口の減少に反して65歳以上の高齢者数は増加しており、配偶者と死別し単独で暮らしている高齢者も増加している傾向にある。富雄団地周辺は自然豊かな景観であり住み慣れている人も多いことから、今後も富雄団地に住み続けたいという高齢者が多いことはアンケートの結果から分かる。しかし買い物をする商店などが少なく、また足腰の痛みのために階段や坂道の多い団地周辺を出歩くのは大変といった声もあり、歩行が困難な高齢者も安心して外出できるように外出支援を行う団体などと連携することも必要となってくる。

次に第三章のアンケート調査から明らかになったのは、居住年数が短い人はご近所との関係が希薄になる傾向にあることだ。自治会やURが初めての人でも気軽に参加できるような地域のイベントなどに関する情報を積極的に、新規の入居者に提供し、参加を支援するなど対策すべきだろう。そして第四章では食に関するイベントに関心を持っている人が多かったこと、また先ほども述べたように歩行機能の低下に対応し、住居の近くにおいしく食事ができて交流できる場所があることが望まれている。

以上をまとめると、団地周辺に男女問わず、さまざまな年代や趣味をもった人が気軽に立ち寄れる居場所をつくること。そしてその居場所を利用してもらうためにも、一人で暮らす高齢者や居住年数が短い人にも積極的に声をかけて居場所の存在を知ってもらうこと。高齢者が安心して在宅生活を継続できる地域を目指すには、これらが重要な課題であると思われる。

【参考資料】

第二章)

校区別福祉計画

<http://www.city.nara.lg.jp/www/contents/1227227789783/index.html>

UR 賃貸住宅関西エリア【富雄】

<http://www.ur-net.go.jp/kansai-akiya/nara/1080.html>